

2014～15年度 第2回クラブ国際奉仕委員長会議 報告

国際奉仕委員会 委員長 **安井一男**
(新大阪RC)



2015年1月24日(土)、9:30～11:30、業年金会館301号室にて、泉博朗G、松本GN、PG、G補佐、G補佐Eの皆様、地区役員、2014-15年度クラブ国際奉仕委員長、2015-16年クラブ国際奉仕委員長予定者など、参加総数90名にて開催しました。

今回の主旨は、「他の団体の国際奉仕活動を聞き、現地の人々に役立ち感謝される国際奉仕プロジェクトとはどのようなものであるべきか? ロータリークラブの国際奉仕活動のあり方を問う」です。

第一部では、講演Iとして「バングラデシュでの教育支援活動」について、公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)会員(青年海外協力隊OB)の杉浦秀隆さんに講演をお願いしました。内容は、2009年6月～2011年3月の間、バングラデシュ人民共和国ガジプールPTI(初等教員訓練機関)にて、バングラデシュの小学校教諭達に理科と算数の指導法を教授、また小学生に理科や算数の授業を行い、現地の教育のシステムの改善活動について映像等を交えて報告いただきました。



杉浦秀隆さんの講演

続いての講演IIでは「エジプト人女性の社会進出と収入向上に向けた取り組み支援活動」について、同職の辻野恭子さんに講演いただきました。内容は、エジプトアラブ共和国・紅海県ハルガダ支局ファミリープロダクト部での、現地の女性がつくる手工芸品の品質改善や販路開拓に取り組みについて、イスラム教の国での女性の活動の難しさ、現地住民との信頼関係構築の重要性についての苦労話なども織り交ぜ大変興味深いお話をさせていただきました。



辻野恭子さんの講演

休憩をはさみ、第二部では、以下のメンバーにてパネルディスカッションを行いました。

〈司会〉 国際奉仕委員長 安井一男(新大阪RC)
〈パネリスト〉

JOCA会員(青年海外協力隊OB) 杉浦秀隆
JOCA会員(青年海外協力隊OB) 辻野恭子
(前)国際奉仕委員長 栗原 大(大阪フレンドRC)
(現)国際奉仕副委員長 岩上高幸(茨木西RC)

パネルディスカッションに入る前に、パネリストの栗原大さんより大阪フレンドRCの「カンボジア・シュリムアップ州立病院のICU医療機器に関するプロジェクトについて」、岩上高幸さんより茨木西RCの「カンボジアのグラフィック診療所でのリハビリ棟の増築と、理学療法士の育成プロジェクトについて」のプレゼンをしていただきました。

続いて、次の3つのアジェンダで討論を行いました。

アジェンダ I 「国際奉仕活動を通じて感じた理想と

現実」

アジェンダⅡ

「汗をかいての奉仕活動、汗がかけない奉仕活動」

アジェンダⅢ 「国際奉仕プロジェクトの重要性」

第三部では「2015～16年度に実施する地区補助金(D.G.)を利用しての人道的国際奉仕活動の進め方」について、地区国際奉仕委員長の安井一男より説明をいたしました。

最後に地区国際奉仕部門顧問の横山守雄PGより、講評と閉会の挨拶にて会議を終了いたしました。

(参考資料)

公益社団法人 青年海外協力協会(JOCA(ジョカ))とは

Japan Overseas Cooperative Association(日本語名:公益社団法人 青年海外協力協会)の英文略称で、開発途上国の人々のために自分の持つ技術や経験を生かし活動してきた青年海外協力隊の帰国隊員を中心に組織されている、内閣府認定の公益社団法人です。

青年海外協力隊で培った精神とその経験を広く普及するため、OB・OG会をはじめとする多くの団体とのネットワークを活用し、地域に根ざした国際交流・国際協力の先駆者としてはもちろんのこと、国際社会における建設的な役割を果たせる、より有益な協力活動を展開していくことを目的としています。

青年海外協力隊とは

日本国政府が行う政府開発援助(ODA)の一環として、外務省所管の独立行政法人国際協力機構(JICA)が実施する海外ボランティア派遣制度である。青年海外協力隊の募集年齢は20～39歳。募集分野には農林水産、人的資源、保険・医療などがあり、さらに120以上もの職種に分かれている。2013年7月末現在までに88ヶ国、計38,300名の隊員が派遣されている

関連事業として、1990年にはより高い年齢層を対象としたシニア海外ボランティア(シニア海外協力隊)が、1996年には中南米の日系人社会をターゲットとした日系社会青年ボランティア・日系社会シニア・ボランティアが開始されている。2000年には派遣隊員数が2万人を突破、2013年7月末現在まででは、派遣国が計88ヶ国、派遣隊員数は延べ38,300名となっている

